



対人的技能（剛法）の学習の様子

■シリーズ■ 中学校武道

授業の充実に向けて 69

外部指導員の活用例 少林寺拳法

多度津町立多度津中学校 教諭 片岡 茂

香川県多度津町は人口約2万5千人の町として、瀬戸内海を臨む中西部に位置し、南は讃岐平野、北は風光明媚な瀬戸内海国立公園に接し、温暖で過ごしやすい土地柄である。また古くから「四国鉄道発祥の地」として予讃線・土讃線の分岐点として多度津駅があるほか、古くは「金毘羅詣で」の玄関口としての役割を果たすなど、交通の要所としても栄えた。

また多度津町は「少林寺拳法発祥の地」としても知られ、国内外を問わず少林寺拳法の拳士が訪れるなど、多度津町と少林寺拳法は切っても切れない縁となっている。町に唯一の中学校である本校において平成22年より実施している少林寺拳法授業について、その実践と取組を紹介したい。

1 少林寺拳法導入の経緯について

少林寺拳法導入の経緯
多度津中学校では、平成22年の新学習指導要領の移行期より、授業において少林寺拳法を実施している。一般財団法人少林寺拳法連盟の指導員を派遣していただき、本校教員とともにチームティーチング（TTT）の形式にて授業を展開している。

これは全国の中学校に少林寺拳法の導入をアピールしていた少林寺拳法連盟と、少林寺拳法発祥の地にある唯一の中学校である本校が、郷土の文化ともいえる「少林寺拳法」を導入し、少林寺拳法の礼法、実技、教えなどを通して、ふるさとである多度津に誇りを持ち、思いを深めてもらい、少林寺拳法を通じた学習において身心ともに豊かになることを目指し、少林寺拳法連盟と本校が連携することで、授業に導入されたものである。

2 外部指導者による授業

少林寺拳法授業においては、少林寺拳法連盟の指導員を派遣していただき、本校保健体育科教員とともにTTTにて授業を展開している。授業の効果として、次の3点があげられる。

- ① 外部指導者の経験を生かした専門的な内容にて授業が展開できること
- ② TTTでの実施により、生徒の実態に応じた安全で、段階的な指導が行えること
- ③ 生徒の学習段階に応じて、発展的な学習が行えること

また、本校保健体育科教員も授業の効果がより高いものになるよう、文部科学省・少林寺拳法連盟の共催にて夏季に開催されている「学校少林寺拳法実技指導者講習会」を受講し、少林寺拳法に関する実技や教えの講習を受け、少林寺拳法連盟が発行する「少林寺拳法授業指導者資格」の認定を受け

3 少林寺拳法の授業

るなど、授業内容の充実を図っている。

実施の内容

本校での少林寺拳法授業は、1・2学年において1または2クラスが男女共修にて、10単位時間程度の授業を行っている。

また、授業の時期については本校と少林寺拳法連盟にて協議のうえ決定し、授業については外部指導員ということもあり、続けて授業を実施できるようにするなど極力負担がからないように配慮して実施している。

授業の展開

授業は外部指導員が中心となつて授業を展開し、保健体育科の教員がサポートを行う体制をとっている。授業は、礼法、基本技術のほかに、2人1組で行う剛法・柔法それぞれの対人的技能の指導、少林寺拳法の教えについて、1学

2013 年度 授業計画

1. 要件 次を要件とした授業計画

- ①授業時間：1 時限（50 分）、10 回（10 時限）
- ②対象学年：1 学年・2 学年
- ③時間割計画
 - ・初 回：授業概略説明・礼法等についてのオリエンテーション
 - ・2 回以降：1 回 1 技を練習する。単演基本形、対人的技能を行い、各グループにて団体演武を組み立てる
 - ・最 終 回：評価（審査）団体演武を発表し、生徒・教員・指導員により出来栄を評価する

2. 技術科目

回	項目	内容
1	オリエンテーション 授業説明、礼法、基本動作	・少林寺拳法の概要等についての知識・理解を深める ・礼法・基本動作（構え、突き方、蹴り方）について学習する
2	基本動作	対人において基本動作の学習を行い、当身の間合い、当身の位置等について学習する
3	単演基本形①	（1 年）天地拳第一系について学習する （2 年）龍王拳第一系について学習する
4	単演基本形②	（1 年）前時の復習をする （2 年）義和拳第一系について学習する
5	対人的技能①（剛法）	（1 年）内受突について学習する （2 年）流水蹴について学習する
6	対人的技能②（柔法）	（1 年）片手寄抜について学習する （2 年）上膊抜について学習する
7	グループワーク①	団体演武について学習し、礼法・単演基本形・対人的技能の内容をもとに、グループで団体演武の学習する
8	グループワーク②	前時の内容に加え、より精度の高い団体演武ができるように各グループで学習を行う
9	発表	全体の前で発表を行い、各自で課題を発見し評価に向けて準備を行う
10	評価（審査）	各グループが発表し、それをもって生徒・教員・指導員が評価を行う

単演基本形 … 1 年：①天地拳第一系
2 年：①龍王拳第一系 ②義和拳第一系

対人的技能 … 1 年：①内受突 ②片手寄抜
2 年：①流水蹴 ②上膊抜

用具、実施場所について

少林寺拳法授業実施に当たっては、2 クラスの男女が校内の体育館・武道場において体操服で授業を行う。

少林寺拳法の授業は、種目の特性として、突き蹴りなどを主体とした剛法と、抜き技などを主体とした柔法がある。そのため、床の材質に関係なく実施でき、体育館

また学んだ内容により設定された課題をもって、単元評価につなげるなど、外部指導員による指導の効果がうかがえる。

年と2 学年においてそれぞれ10 時間程度実施している。特に対人的技能については、指導の持つ専門性を活かした内容にて展開され、護身の技術としての効果についても学習し、一見難しそうに見える技でも、ちょっとしたポイントを押さえるだけで技がかかることを体感し、技をかけあう楽しさや、やればできるといった達成感や喜びを味わうことにより、生徒たちの興味関心を高める授業が展開されている。



対人的技能（柔法）の発展的な学習の様子

授業での実施内容

授業は、礼法、基本動作、単独での演武形（単演基本法形）、剛法・柔法の対人的技能等を実施

や武道場など既存の施設での実施が可能である。また、体操服での実施が可能で道衣購入の必要がなく、徒手での種目であるため、新たな備品の購入の必要もない。施設、備品、経費の面において少林寺拳法は授業導入がしやすいかった。また用具（ミットや胴など）を使用することで、より発展的で効果的な授業が行えたり、学習効果が高くなることも期待できる。



外部指導者による指導の様子

し、生徒の習熟の度合いに応じ、柔法の逆技など発展的な内容を実施している。

特に柔法の逆技における頭を打つ可能性の高い投技、逆技等については、倒れる側が前に手を付いて四つん這いになって倒れる技を実施したり、座った状態で落差を少なくして実施し、倒れる恐怖感を低減させる内容を行うなど、安全に十分に配慮して行っている。

また、剛法においても、最初は突きや蹴りが当たらない間合いで接触せずに行い、徐々に間合いを詰めるなど安全に配慮した授業を

展開している。

平成25 年度の授業においては、礼法、基本動作、対人的技能などをもとに、あらかじめ設定した課題を4 ～6 人のグループが一丸となつて取り組む「団体演武」を中心に授業を展開した。

この団体演武の授業においては、下記の①～③の視点と合わせ、グループ内でリーダーを決め、リーダーの指示により、礼法、単演基本法形、対人的技能を組み合わせた課題を練習した。

①学習した礼法、基本動作、対人的技能などの内容を正確にできるか

②グループ内での自分の役割を理解し、互いに協力して取り組んでいたか

③相手を尊重することができているか

はじめは動きもぎこちなく、協調性に欠けているグループも多く見られた。しかし、授業が進むにつれ、各自が自分の役割を理解し、リーダーを中心にグループ内で生徒一人ひとりがその個性を活かしつつ、協力しながら練習し、



単演基本法形の発表の様子

現在、本校では、少林寺拳法連盟の協力のもとに外部指導者を派遣していただき、授業を展開しているのは前述のとおりである。しかし、学校体育においては保健体育科教員が授業を行うことが原則であり、ここ多度津では少林寺拳法連盟の協力があって、少林寺拳法の授業ができたとしても、同じ香川県の中学校においてさえ、同じような環境で授業が展開できるとは限らない。

現状では、他教科の少林寺拳法指導者や協力いただける外部指導者の方や専門家がいない場合には、少林寺拳法の授業を展開することが厳しく、外部指導者へ協力を求める必要があると思われる。



授業は外部指導者とともに行われる

武道は「武道の理念」にある通

まとめ

5

をお願いしなければいけないのが大きな課題の一つである。そういった実情を踏まえ、校内で少林寺拳法を指導できる教員の育成に取り組むことはもちろん、外部指導者の持つ専門性を活かした、安全で教育効果の高い授業展開ができるよう学校少林寺拳法実技指導者講習会の受講や各種研修会の受講を通して、教員の育成に取り組む必要があると思われる。

このことは、中学生期の人間形成にとって、公正な態度や、健康、安全に留意して行う態度などの形成を行う観点からすると、少林寺拳法をはじめとした武道を学習する効果は非常に高いといえる。

今後も少林寺拳法の護身の技術としての特性を活かし、生徒たちの興味関心をひきつけながら、豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実をはかり、継続して少林寺拳法が実施できるよう指導を行っていきたいと思う。

指導者の養成

少林寺拳法授業の今後の課題について

4

生徒同士でも互いに教え合う様子が多くみられるようになった。

また、できないところは指導員や教員に質問したり、グループ内で話し合いを行ったり、よくできているグループに教えてもらいに行くなど、どうすれば上達できるかについて積極的に取り組む姿がみられ、課題を克服しようとする姿勢や、協力して取り組む様子がみられた。

評価は、技能については団体演武の出来栄を中心に行った。授業の中において何度か成果発表の時間を設け、ほかのグループの出来栄を各自で実感したり、テストにおいても、教員の評価とは別に、生徒同士で評価・採点する方式を採用するなど、安全かつ分かりやすい方法で評価につなげることができると、一定の効果がみられた。



グループで課題に取り組む様子

日本武道館に掲揚されている日本最大級の日の丸
全日本少年少女武道錬成大会 刺繍旗

の実績

社旗 校旗など
各国国旗
のぼり・応援幕・バナー
タスキ・腕章・半纏など
トロフィー・楯・徽章
デザイン作成もいたします



早稲田大学応援部 慶應義塾大学応援指導部 立教大学応援団



株式会社 三上旗店 (創業明治五年)

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-12-6 三上ビル

TEL:03-3663-8841 FAX:03-3664-8108 Mail:info@mikami-flag.co.jp URL:www.milkami-flag.co.jp